

『以北山沿い会』へのご挨拶

—2019・8・16—

本日、皆様にはこの集會に遠路ご参集くださり、ご苦労さまでございます。

過日の萩無里君からのご通知に「今回は松本ですので無理をしないで下さい」という添書がございましたので、そのお勧めに従い書面にてご挨拶申し上げる次第です。

私も本年は「米寿」の節目を迎えました。八十八年の長い歳月の中で、私が今一番幸運だったと思いますことは、多くのすばらしい方々に会うことができたということでございます。人生における幸福でこれ以上のものはございません。

私の現在の日常は、父が遺してくれた植栽、そして家内が慈しんだ薔薇たちを相手に、日がな一日庭仕事に精を出すことです。そして今年も例年通り十一月に入ると娘と孫を連れて奈良へ行き、国立博物館で催される「正倉院展」を觀賞し、顔馴染みのタクシーの運転手さんのご案内で、大和古寺巡礼をする予定です。

ご挨拶の結びとして、私の教師生活の中で一番心打たれた生徒のことをお話ししたいと存じます。

私が代々木ゼミナールで英作文の講師をしていたとき、学生の中に眼の不自由な少女が一人おりました。毎回授業が終わると、友達に付き添われて講師室の私の席まで駆け付け、10題の問題に対して20通りの英文を書いてきて添削をうけていました。あるとき「あなたはどのようにして英作文にこれほど打ち込んでいるのですか」と質問すると、「英語で書かれたいい本がたくさんあります。それを点字で翻訳して眼の不自由な方に読んでいただきたいと願っています。」と言い、にっこりされました。以後、この生徒が私の心の先生になりました。

渡邊 壽郎